

News Letter

川の防災学習会 in 北見市立中央小学校

「川の防災学習」実施レポート

◆開催概要◆

令和7年9月11日(木)、北見市立中央小学校において、4年生35名を対象に「川の防災学習会」を開催しました。

中央小学校では、第4学年総合的な学習の時間において「ぼくらの街を守り隊」として防災・減災に関して学びを深めており、その一環で令和4年度より「川の防災学習会」を実施しています。

◆実施内容◆

はじめに、児童に「災害にはどのような種類があるか」を考えてもらいました。多くの災害は予測が難しいものですが、「水害」は気象情報やハザードマップなどを活用することで、ある程度予測できることを説明しました。次に、身近な常呂川の増水前後の写真を見比べながら、増水時の川で何が起きているのかを考えました。あわせて、水は高いところから低いところへ流れ集まることを確認しました。

平成28年8月に常呂川が越水した様子や、音更川で堤防が削られてしまった様子を紹介し、堤防だけでは防ぎきれない水害があることを学びました。その後、別室に用意した流水実験装置を使い、川岸が削れる様子を観察しながら、護岸の役割について学習しました。



災害にはどんなものがあるか発表しました



常呂川は中央小学校よりも約38m低い所を流れています



川のカーブの外側と内側どちらが削れるかな？



川が削られないように護岸が置かれています

後半は、マイ・タイムライン作成ツール『逃げキッド』を使い、台風や前線の発生から川が氾濫するまでの間に、どのような準備や行動をどの順番で行うとよいかを考えました。

その後、災害時の情報入手方法として、児童が授業で使っているタブレット端末を活用し『川の防災情報』を閲覧しました。身近な川だけでなく、日本全国の水位情報や画像が確認できることを学びました。

最後に、避難情報が出たときには命を守る行動をとることの大切さを確認しました。“あふれる前に安全なところへ避難する”、“すでにあふれてしまった場合は、無理をしないで建物の2階など高い場所へ移動をする”、“早め早めの準備が重要なこと”を児童と共有しました。

～知って得する防災情報 線状降水帯～

大雨をもたらすのは台風だけではありません。線状降水帯とは、積乱雲が带状に並び、同じ場所に次々と発生して長時間雨を降らせる現象です。予測は難しく、令和3年6月に運用が始まった「顕著な大雨に関する気象情報」として気象庁が発表するのは半日程度前からです。発表があっても必ず発生するとは限りませんが、大雨による被害の恐れがあります。直近では、今年9月21日に北海道で初めてこの情報に基づく線状降水帯が確認され、釧路地方の白糠町では24時間降水量が観測史上最大の173.5mmを記録し、住宅の浸水や線路の土台流出などの被害が出ました。

気象情報をこまめに確認し、危険を感じたらすぐ避難するなど、命を守るための行動が非常に重要です。



台風発生からの行動順を班のみんなで考えました



班で考えたタイムラインを発表しました



『川の防災情報』で近くの川の水位を確認してみよう

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンはこちらから



News Letter

川の防災学習会 in 北見市立小泉小学校

「マイ・ハザードマップ」実施レポート

◆開催概要◆

令和7年9月12日(金)、北見市立小泉小学校において、5年生2クラスを対象に「川の防災学習会」を開催しました。小泉小学校では、平成20年から4年生～6年生を対象として「川の環境・防災学習会」を総合的な学習の時間において実施しています。

◆実施内容◆

はじめに、昨年7月の東北の豪雨被害から、日本では毎年水害が起きていることや、平成28年の台風で常呂川が被災した映像を通じ、水害の身近さを確認しました。次に、常呂川の洪水前後の写真や動画を見比べながら、川が増水するとどうなるかを皆で考えました。また、堤防の役割や河川上流の雨による水害についても学びました。

その後、^{ないすいはらん}内水氾濫(川があふれ出ていないのに街が浸水)・地下浸水(水圧でドアが開かない)・竜巻(強い上昇気流による激しい突風)・流れる水の動きと土地の変化(大雨による土砂の侵食・運搬・堆積)の模型実験を見学し、風水害について学習しました。



過去の水害を映像で確認しました



地図にシールやマーカーで情報を記入していきます



「高い所にある建物はどれ？」避難場所をクイズで学習



家や通学路は浸水する？シートを重ねて確認しよう



『川の防災情報』で近くの川の水位を確認してみよう



近ごろよく耳にする内水氾濫とは？



ドアに水圧がかかると大人でもドアが開けられません



積乱雲の下では竜巻が発生することがあるんだね



流れる水のはたらきを模型で学びました

後半では、各班に用意した大きな地図へ通学路周辺の水が集まりそうな場所や大雨が降った時に危険だと思ふ場所などを記入し「マイ・ハザードマップ」を作成。小学校周辺の地形の特徴や避難場所などをクイズ形式で学びました。最後に、災害・防災情報の入手方法としてWebブラウザで『川の防災情報』にアクセスする方法を、実際にタブレット端末を使って試してみました。

～知って得する防災情報 極端な天気にご注意～

地球温暖化の影響により、日本各地で最高気温が40℃を超える地点が増えています。北見市でも、今年7月24日に過去最高となる39.0℃を記録しました。この夏は雨が少なく、日差しも強かったため、北見特産の玉ねぎは葉が焼けたり、大きく育たなかったりする被害が出ました。

気象の変化として、「気温が高いと雨が降りにくくなる」一方で、「ひとたび降れば記録的な大雨になる」といった極端な傾向が見られます。これは、気温が高くなることで空気中に水蒸気が多く蓄積され、雨の回数が減る一方、蓄積された水蒸気が一気に放出されることで記録的な大雨を引き起こすためです。

「高温では雨が降りにくくなるが、降れば大雨になる」——そんな気象の変化を理解し、日ごろから天気予報をチェックして災害への備えを心がけましょう。

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンは
こちらから

News Letter

川の防災学習会 in 北見市立北光小学校

「マイハザードマップ」実施レポート

◆開催概要◆

令和7年9月18日(木)、北見市立北光小学校において、5年生2クラスを対象に「川の防災学習会」を開催しました。北光小学校では、平成18年から4年生を対象に「川の環境学習会」を実施しているほか、平成26年から5年生を対象に「川の防災学習会」を実施しています。



水害が身近で起こったら…?

◆実施内容◆

はじめに、昨年全国で起こった豪雨災害から、日本では毎年水害が起きていることを確認しました。また、北見市に隣接する美幌町で令和5年7月に発生した大雨や、平成28年8月に北海道を襲った台風の影響を例に、水害が身近に起こりうることも確認しました。次に、身近にある無加川の洪水前後の写真や動画を見比べ、増水した川では何が起きているのかを皆で考えました。堤防の役割や堤内・堤外の違いや内水・外水についても学習しました。



近ごろよく耳にする「内水氾濫」とは?

その後、^{ないすいはらん}内水氾濫(川からあふれ出ていないのに街が浸水)・地下浸水(水圧でドアが開かない)・流れる水の動きと土地の変化(大雨による土砂の侵食・運搬・堆積)の模型実験を見学してもらい、大雨でどのような災害が起こるかを確認しました。また、非常持出品の実物例を見て、事前に揃えないと災害時に間に合わないことなどを学びました。



流れる水のはたらきを模型で学びました



非常持出品バッグには何を入れておく?

後半では、各班に用意した大きな地図へ通学路周辺の水が集まりそうな場所や大雨が降った時に危険だと思う場所などを記入し「マイハザードマップ」を作成。小学校周辺の地形の特徴や避難場所などをクイズ形式で学びました。最後に、災害・防災情報の入手方法としてWebブラウザで「川の防災情報」にアクセスする方法を、実際にタブレットを使って試してみました。



家から学校へのルートを確認



低い場所にある施設はどこ?



自分たちの住むところはどのくらい浸水するのかな…



タブレットで防災情報をチェック

～知って得する防災情報 トイレの重要性～

防災備蓄品と聞くと、まず水や食料など命に直結するものを思い浮かべがちですが、絶対に忘れてはならないのは“トイレ”です。災害時にはトイレが使えなくなる場合が多く、避難所に仮設トイレが届くまでに3日以上かかる場合もあります。水害時はマンホールトイレも使用できません。

猛暑や極寒でなければ、水や食料は1日ほど我慢できることもあります。トイレは数時間でも我慢するのが難しく、深刻な問題になります。トイレに行く回数を減らそうと水や食料の摂取を控えると、エコノミークラス症候群など体調悪化につながる恐れがあります。また、流れないトイレに繰り返し排泄すると、悪臭や衛生環境の悪化を招き、感染症のリスクも高まります。

避難生活の質を守るためにも、非常持出品や備蓄品には、1人1日5回分を目安に、必ず簡易トイレを用意しておきましょう。



水なしで使える簡易トイレの用意を!

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

網走開発建設部 出前講座

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>



スマートフォンは
こちらから

News Letter

川の防災学習会 in 北見市立小泉小学校

「マイタイムライン」実施レポート

◆開催概要◆

令和7年10月21日(火)、北見市立小泉小学校において、6年生2クラスを対象に「川の防災学習会」を開催しました。

小泉小学校では、平成20年から4～6年生を対象として「川の環境・防災学習会」を総合的な学習の時間において実施しています。流域治水の取り組みとして、「いつ」「何をするか」を整理した『マイタイムラインの作成』を、令和3年から6年生の学習会で実施しています。

◆実施内容◆

はじめに、昨年の学習会の内容を振り返りながら、毎年日本のどこかで自然災害が起きていること、小泉小学校周辺はかつて川だった場所で水が集まりやすく、水害の危険性があることを児童たちに再確認してもらいました。

次に、「流域治水」について、この学習会もその一環であることを説明したうえで、マイタイムライン検討ツール『逃げキッド』を使い、台風や前線の発生から川が氾濫するまでの間に、どのような準備や行動をどの順番で行うべきかを考えました。



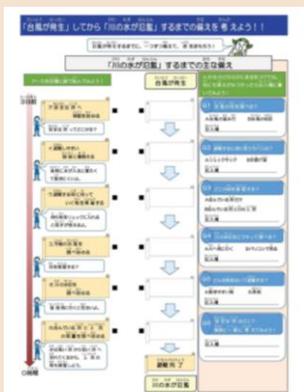
昨年の学習会を振り返り
毎年自然災害が起きている



防災学習や環境学習も
流域治水の一環です



水害が起きそうな時
どの順番で行動する？



マイタイムライン検討ツール
『逃げキッド』

後半では、「非常持出品」の準備に挑戦。非常持出品リストの中から、水害時の避難に何が必要かを考え、どれくらいの荷物になるかをリュックに詰めて実際に体験しました。児童からは「カンパンってどんな味か食べてみたい」「アルミブランケットが暖かい」などの声が聞かれました。その後アンダーパスや建物の地下には水がたまりやすいことを確認したうえで、スマートフォンの浸水被害ARシミュレーションアプリ『浸水カメラ』を使い、教室が浸水したらどうなるかを視覚的に体験しました。

最後に、水害はある程度予測できるが災害はいつ起こるか分からないため、家族と「連絡手段」「避難場所」「避難の道順」を確認してほしいということを伝え、3年間にわたって実施した「川の環境・防災学習会」を締めくくりました。



非常持ち出し品の準備
カンパン・お菓子は必要？



アルミブランケットに
くまってみたよ



アプリ『浸水カメラ』で
教室が浸水した時を疑似体験



逃げ遅れたらどうなる？
映像で確認しました

～知って得する「流域治水」～

「流域治水」とは、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らす ②被害対象を減らす ③被害の軽減・早期復旧・復興、の3つのポイントをもとに、国や地方自治体だけでなく住民など“流域に関わるすべての人が水害に備える”という考え方です。マイタイムラインの作成や排水路の清掃なども流域治水の一環です。

この機会に、ご家族みんなで防災について改めて考えてみてはいかがでしょうか。

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

網走開発建設部 出前講座

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>



スマートフォンは
こちらから

News Letter

川の防災学習会 in 北見市立三輪小学校

「マイ・タイムライン」 & 「マイ・ハザードマップ」 実施レポート

◆開催概要◆

令和7年11月14日(金)、北見市立三輪小学校において、5年生3クラスを対象に「川の防災学習会」を開催しました。

三輪小学校では5年生を対象に令和2年度から実施している「川の環境学習会」に加え、令和4年度からは「川の防災学習会」を開催しています。

◆実施内容◆

はじめに、身近にある無加川の増水前後の写真を見比べながら、増水時の川では何が起こっているのかを皆で考えました。水は高いところから低いところへ流れ集まること、常呂川流域の中に降った雨水はすべて常呂川に集まることを確認しました。

その後、増水した川で起こる災害を例示し、守り切れない水害も発生することや、災害のなかでも「水害」は気象情報やハザードマップ等の情報を組み合わせることで、発生時期を「予測」できることを説明し、事前防災の取り組みとして『マイ・タイムライン』『マイ・ハザードマップ』の2つを作成しました。

『マイ・タイムライン』では、避難が完了し河川氾濫が発生する時を0時とし、台風が発生した3日前から何を準備し行動すべきかを各自で考えました。

『マイ・ハザードマップ』では、自宅や学校の周辺に危険な場所はないか、水が集まりそうな場所はどこか等を地図上に記入し、北見市発行のハザードマップを示すほか、浸水の時間経過についても例示しました。



増水した時の川の特徴は？
増水前後の違いを確認しました



流域内の水が集まることを
コップの水で表現しました



水害が起きそうな時
どの順番で行動する？



『マイ・ハザードマップ』作成
赤・青・緑のシールを貼ります



どこが浸水するのか
確認してみよう



「川の防災情報」で
身近な無加川の様子をチェック



3択クイズ
低い土地はどこ？



水深5mをスケールで確認
その高さにみんなビックリ!



非常持出品の例
何をどのくらい持っていく？

最後に、タブレットを用いて「川の防災情報」へのアクセス方法を試し、早めの準備と避難の重要性を確認して学習を締めくくりました。

～知って得する 防災情報の収集～

全国各地で毎年のように水害が発生しています。今年も8月6日から8月12日にかけて、北日本から西日本の広い範囲で大雨が降り、特に線状降水帯が発生した石川県や鹿児島県で甚大な被害が発生しました。

災害から身を守るためには、自ら最新の情報を収集し、避難行動へつなげることが重要です。河川水位や気象の最新情報は、国土省の「川の防災情報」や気象庁の「キキクル」などインターネットで確認できます。また、北見市のメール配信システム「メール@きたみ」では避難所開設情報などを受け取ることができます。避難行動の際には是非ご活用ください。

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンは
こちらから

News Letter

川の防災学習会 in 北見市立南小学校

「マイ・タイムライン&マイ・ハザードマップ」実施レポート

◆開催概要◆

令和7年11月21日(金)、北見市立南小学校において、4年生3クラスを対象に「川の防災学習会」を開催しました。

南小学校では、令和5年度から4年生を対象として「川の環境学習会」と「川の防災学習会」を総合的な学習の時間において実施しています。

◆実施内容◆

はじめに、常呂川の増水前後の写真を見比べながら、増水時に川で何が起こるのかを、皆で考えました。水は高いところから低いところへ流れ集まることを確認したあと、平成28年8月に常呂川が増水した様子を動画で確かめました。

次に、災害の中でも「水害」は、ニュースや気象情報等で発生時期を予測できることを説明し、事前防災の取り組みとして『マイ・タイムライン』を作成しました。マイ・タイムライン検討ツール“逃げキッド”を使い、台風が発生してから川の水が氾濫するまでの間に、どのような準備をどの順番で行うのか考えました。その後、避難する時に持っていく物を



水害が起きそうな時
どの順番で行動する？



水害時の行動順を
班でまとめ発表しました



非常持出品を詰めた
リュックを背負ってみました



マイ・タイムライン検討ツール
“逃げキッド”

準備する例として、1人が3日間過ごすための非常持出品を詰めたリュックを背負い、重さを体験しました。

後半では『マイ・ハザードマップ』の作成に挑戦しました。まず、自宅や学校周辺で水が集まりやすい場所を地図に書き込みました。次に、身近な施設の中で標高が低い場所をクイズ形式で答えたあと、北見市が発行しているハザードマップを重ね合わせ、自宅や学校周辺で予測される浸水の深さや、近くの避難場所の位置を確認しました。

最後に、水がすぐ近くまで迫ってきた場合には、学校などの高い場所へ避難すること、避難に関する情報を見聞きして不安を感じた時には「警戒レベル3・高齢者等避難」で避難してよいこと、「警戒レベル4・避難指示」が出た場合には必ず避難することを児童と共有しました。



3つの施設で低い所はどれ？
手をあげて解答しました



家や通学路は浸水する？
シートを重ねて確認しました



警戒レベル4までに
必ず避難を済ませよう！

～知って得する 避難の心がまえ～

せっかく避難しても自宅に被害がなければ、“空振りだった”“避難する必要はなかった”と感じる人もいるかもしれません。しかし実際に避難してみることで、非常持出品が足りなかった・不要なものが入っていた、避難経路の確認や避難所の様子など、新しい気づきを得られます。こうした発見や体験は、次の避難行動に役立ちます。

避難を「空振り(失敗)」ではなく「素振り(練習)」と考えることで、避難に対する心理的なハードルが下がります。より早い避難行動につながり、自分や家族の命を守る可能性が高まるのではないのでしょうか。

出前講座のお申込み・お問い合わせは下記URLをご参照ください。

北海道開発局 網走開発建設部ホームページ【出前講座】

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/kouhou/v6dkjr000001vpn.html>

網走開発建設部 出前講座



スマートフォンは
こちらから